



犬の分離不安 行動診療の実際と 一次診療で伝えてほしいこと

南大阪どうぶつ行動診療(富田林市) 小野寺智香

自己紹介



羽曳野市出身

2015年 大阪府立大学 卒業(獣医外科学教室)

2015~16年 吹田市動物病院 勤務

2016~20年 伊丹市動物病院 勤務 パピークラスを開始

2020~22年 朝来市動物病院、北摂夜間救急動物病院 勤務

2021年 JAHA認定 こいぬこねこ教育アドバイザー
日本獣医動物行動研究会 獣医行動プラクティショナー
ノーズワークファンフレンズ認定インストラクター

自己紹介

2022~23年
2023年5月

堺市動物病院 勤務
南大阪どうぶつ行動診療 開院



往診型にしなかった理由・・・

問題行動の完治は難しい

社会化不足、トラウマ経験、繰り返した学習 etc.

例) 他の犬を見ると不安や恐怖から吠える

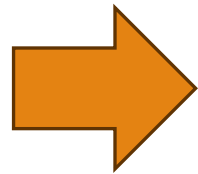


ゴール設定

犬がたくさんいる所で遊ばせてあげたい



他の犬を見ても無視できるように



問題行動も予防が一番！

子犬子猫教室

飼い主との信頼関係の構築

社会化／馴化の促進

問題行動の芽を摘む



村田香織先生, Parade books

パピークラス・パピーパーティー



JAHAこいぬこねこの教育アドバイザー養成講座
当院でも導入支援いたします

昨年の動臨研でも

- ・ペットフレンドリーな診療（ベーシックセミナー）
野口ゆづる先生
- ・フィアフリーな診療（パネルディスカッション）
新木美和先生、堂山有里先生、和田美帆先生



愛玩動物看護師の活躍の場に

今日の本題

1. 犬の分離不安の特徴
2. 診断のピットフォール
3. 治療 初期対応を中心に
4. 予防として出来ること

参考文献



犬の分離不安

犬が飼い主から分離された状態の時に生じる
苦痛に対する反応を問題とする行動

苦痛を示す身体的あるいは行動学的シグナルが
実際に飼い主が不在の時あるいは犬が
飼い主が不在であると想定あるいは解釈した場合にしか見られない

T Meneses et al, 2021

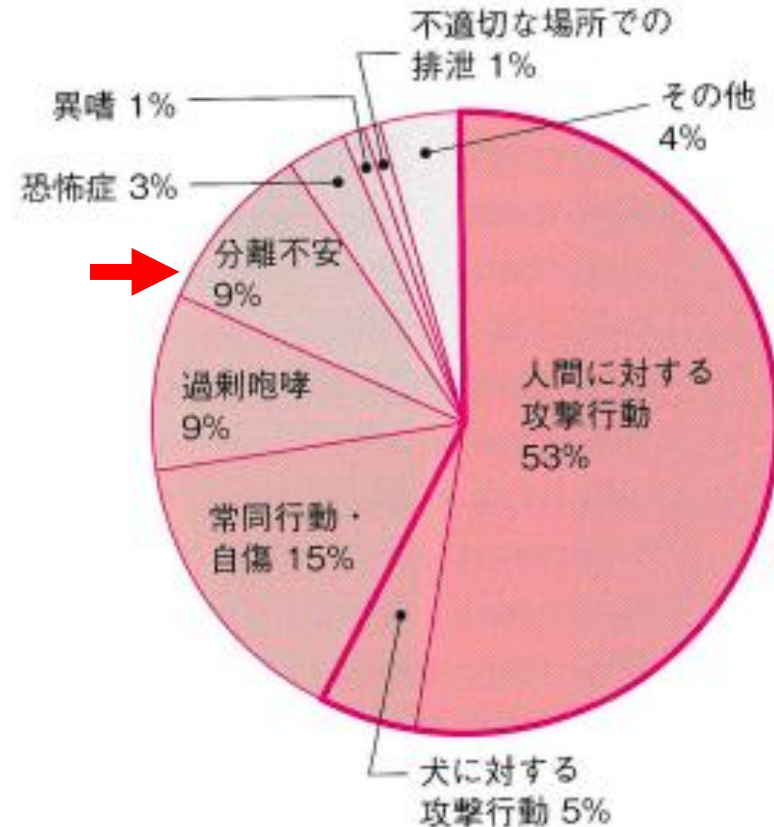
分離不安で一般的な問題行動：
破壊行動、過剰咆哮、不適切な場所における排泄、流涎過多、自傷

疫学

- ・単独の診断名としては最も多い行動疾患 Ogata et al, 2016

- ・東京大学行動診療科
来院症例
2000～2020年犬640頭

一般診療にとりいれたい
犬と猫の行動学 より引用



疫学

有病率15%前後??

- 分離に関連した苦痛(separation-related distress)
犬は一般的に一頭で分離されたくない(正常行動)
- 分離不安(separation anxiety)
飼い主の生活に有害な影響をもたらす苦痛を伴う
- 恐怖症に近い深刻な分離不安
嘔吐、流涎過多(自律神経徴候)、自傷などを伴う

飼い主へのアンケート調査 ⇒ 動画での診断によって変わる可能性

関連因子



犬種差・性差：なし

年齢：多くの犬(55%)は3歳までに発症
高齢犬で加齢に伴い不安傾向が高くなり発症することも

関連因子

- ・恐怖、不安傾向（ネガティブな認知バイアス）
- ・適切な刺激や社会的関わり合いの不足
- ・飼い主が一人暮らし
- ・譲渡犬
- ・服従トレーニング教室への参加経験がない
- ・飼い主の犬の行動やニーズへの理解度（飼い主と犬の不安定な関係）





よく言われるけど



①多頭飼いだと分離不安にならない？

②甘やかすと分離不安になりやすい？

動物の数と分離不安

同居動物の有無は分離不安の発症と関連がない

<治療としても>

一般的に留守時の仲間に他の動物を飼い始めることでは問題は解決しないため**推奨されない**

発散機会の減少などデメリットもある



甘やかすと分離不安

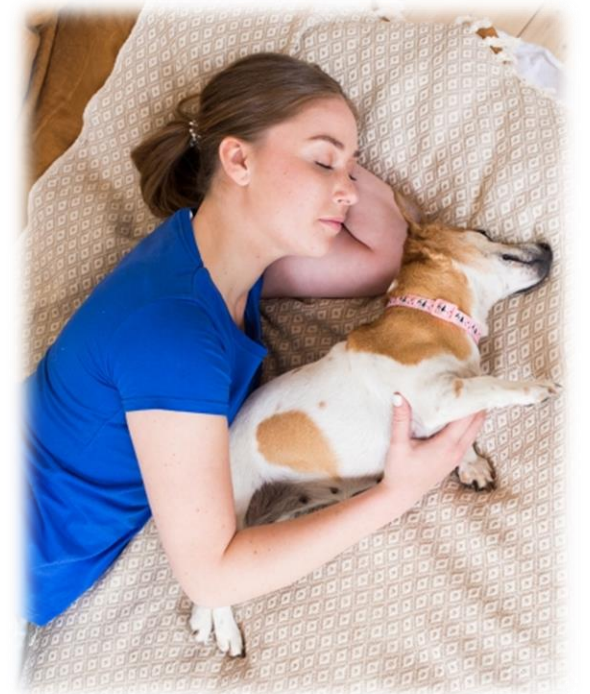
犬を飼い主のベッドで寝かせる

膝に乗せる

食卓から犬にご飯を与える etc.

一般に犬を甘やかすと言われる飼い主の行動は

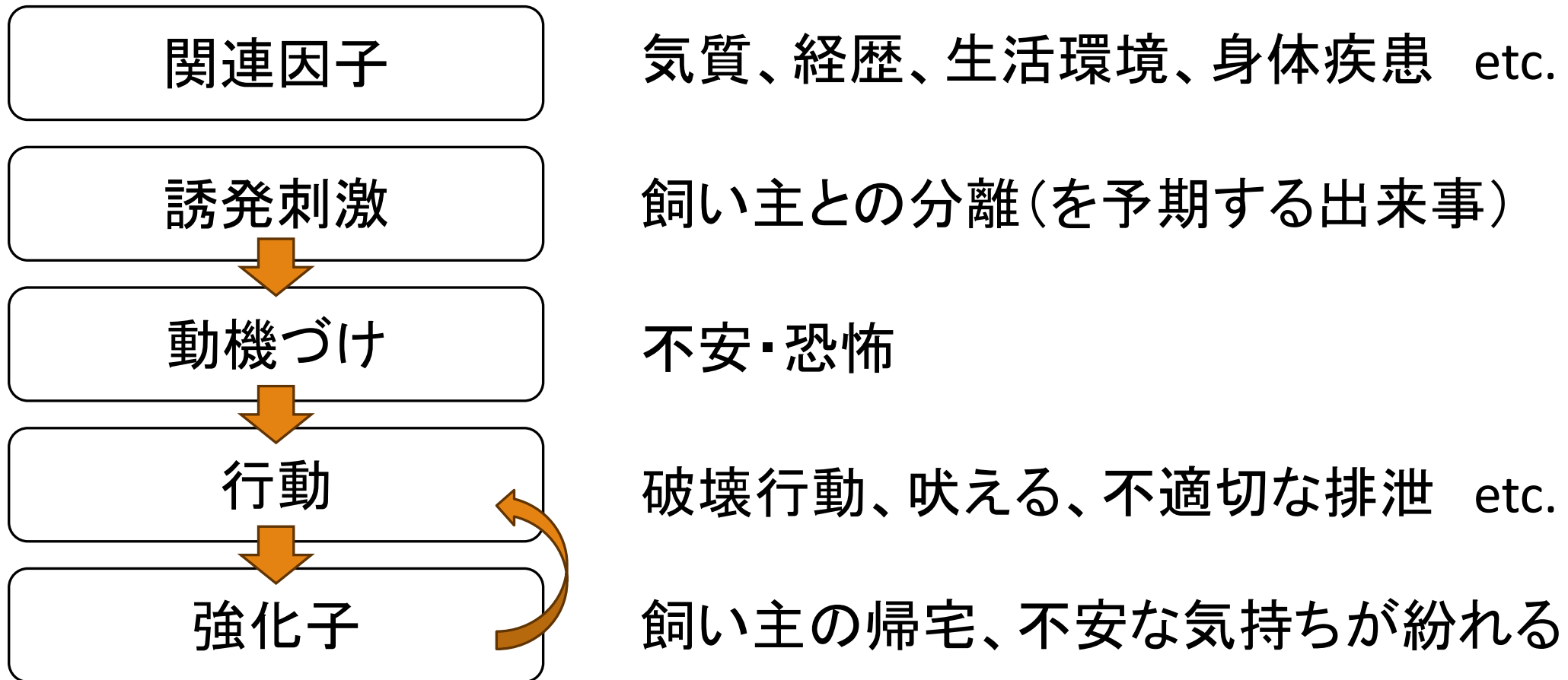
分離不安の発症と**関連しない**



診断



問題行動を考える時



まずは身体疾患の除外



特に **急に留守番が出来なくなった**場合

高齢発症の場合

- ・疼痛性疾患／内分泌疾患／代謝性疾患／神経疾患
- ・尿路疾患、消化器疾患（不適切な場所での排泄）
- ・皮膚疾患（自傷行為）

聞き取ること



- ・家族構成(他のペット)
- ・全ての家族の日課
- ・犬の日課(食餌、運動、遊び、トレーニングなど)
- ・それぞれの家族と犬の関係
- ・対象者の在宅時の犬の様子

・問題行動の詳細

いつ? : 不安徴候が飼い主の外出時および

それを予期した際にのみ、一貫して認められるか

ボディランゲージ(動画)、特定のパターン、実施した対応とその反応

- ・飼い主の外出前ルーティーン
- ・外出時の犬の環境
- ・飼い主の帰宅時の犬の様子と飼い主の対応
- ・犬の預け先

研究会統一質問票



日本獣医動物行動研究会（Japanese Veterinary Society of Animal Behavior）は、犬猫を中心とした伴侶動物の問題行動を治療する「行動診療」を発展させ、臨床獣医師や一般の飼い主に動物行動学や問題行動の治療に関する啓発活動を行うことを目的に、2000年に、行動診療に関心の高い獣医師を中心に発足した研究会です。

2013年より、獣医動物行動学（動物行動学および臨床行動学）に精通し、行動診療を行うために必要な専門知識と技術、十分な診療経験を有している獣医師を、行動診療科認定医として認定する制度を発足させ、2022年までに13名の認定医を認定しています。

研究会からのお知らせ

RSS

体罰に関する声明文発表について

会員専用

「診察前調査票」
統一フォーマット

Dog.pdf

Cat.pdf

会員専用コーナーにてワード版を
ダウンロードできます。



<http://vbm.jp/>

不安徴候は出ていますか？



飼い主の外出準備時や留守番時

- ・流涎
- ・パンティング
- ・引きこもり
- ・震え
- ・食欲不振、嘔吐
- ・常同行動(歩き回るなど)

ボディランゲージ

耳を後ろに引く、舌をペロペロする、前足を上げる、尾を下げる など

飼い主が外出しようとしたり、閉じ込めようとした時に
攻撃行動が生じることも

ボディランゲージ

犬語

主演：ブギー（ボストン・テリア）



警戒中



怪しいぞ！



不安



危険だ！



怒ったぞ！



平和にしようよ。
目や顔を背ける



嫌だなー。
あくび



嫌だなー。
鼻をぺろっ



平和にしようよ。
匂い嗅ぎ



君のことを尊重
するよ。
向きを変えて立ち去る



近づかないで。
白目が見える



追跡



嫌だなー。
体をカキカキ



ストレス軽減
体をブルブルっ



リラックス
力が入っていない
目、瞬き



君のことを尊重
するよ。
背を向ける



好意と気遣い
弓なりの体



敵意なんて
ないぞ。



お願いだよー。
まんまる子犬顔



あなたのとりこなの。
お腹なでてポーズ



こんにちは。好きだよ！
ご挨拶のストレッチ



仲良くしよう！
プレイバウ



準備OK！
捕獲のためのパウ



おいしいもの
くれるよね。



好奇心
首を傾げる



シアワセ
(もしくは暑い)



大喜び
体くねくね



うーん。



好きだからオネガイ！
やめないでえ。

<https://www.doggiedrawings.net/freeposters>

留守中の観察

動画が必須

TP-Link



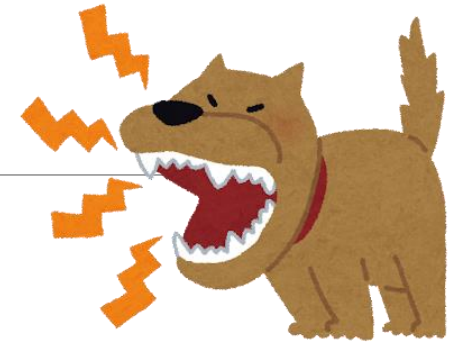
Furbo



診察中、飼い主と共に退室



行動学的鑑別診断（吠え）



- 関心を求める行動
- 他の恐怖に関連する状態（音恐怖症など）
- 環境的刺激に対する反応
- 障壁に対する不満
- 常同障害
- 認知機能不全

症例 診断のピットフォール

くっきー

トイプードル 9カ月齢 去勢雄

体重4.56kg BCS 4/9

既往症：無し

主訴：分離不安症（不眠）

夜中に家族が動く音に敏感に反応して鳴く



症例

夜にリビングのケージ内で就寝させている

23時ごろにケージへ。飼い主は各部屋へ移動

1時ごろからドアの開閉音、電気のスイッチ音などに吠える

ご主人がリビングで一緒に寝るようにしていたが

2カ月前(7カ月齢)ごろから熟睡できてない様子

→主治医にてトラゾドン 5.56mg/kg 頓服

身体疾患の鑑別

去勢手術時の血液検査：異常なし

院内で身体検査・神経学的検査：異常なし

問題行動に関しての聞き取り

- ・昼の留守番は問題なし
- ・23時の離れる際に不安徴候は見られない
- ・飼い主がいる時は前述の音に吠えることは無い
- ・日中ケージにいる間は吠えることは無い



関心を求める行動と診断

治療



治療

関連因子

環境修正、身体疾患の治療、薬物療法

誘発刺激

刺激制御、古典的条件づけの消去

動機づけ

叱責の禁止、薬物療法
系統的脱感作、拮抗条件づけ

行動

安全対策（怪我・逃走防止）

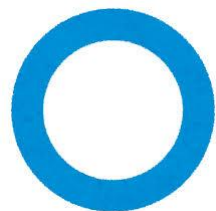
強化子

代替行動分化強化

叱責の禁止



犬が置いていかれたことに悪意をもって仕返し



分離不安の行動は不安によるもの



叱責は不安を助長

飼い主が下に見られて問題行動？

犬は人に対して上下関係を求めず、問題行動が生じる原因として
上下関係は関連性がない

Bradshaw et al, 2009

飼育下のオオカミは序列を築くが、本来のオオカミの群れは
家族関係に近い

犬の能力, ナショナルジオグラフィック(2020)



刺激制御

刺激＝飼い主との分離（を予期する動作）



＜刺激を無くす＞

- ・犬を連れて出る
- ・不安を生じない場所（ペットホテル、車内など）を利用

＜刺激を減らす＞

- ・外出の準備作業を少なくする
- ・外出の前後5～15分に興奮させない（お出かけセレモニーをしない）

環境修正：発散の増加



- ・外出前に散歩や運動をさせる

興奮させるとそのまま過覚醒状態の犬もいるので
服従訓練をはさんだり、嗅覚作業の方が向く場合も

- ・外出時に犬が空腹になるように給餌時間を設定した上で
知育玩具を置いて出る

発散の増加

＜飼い主がいる時に＞

ノーズワークマット

ドッグパズル

＜留守番中に＞

コング、グルー etc.



サプリメント



- ・アダプティル(犬アピージングフェロモン類縁化合物)
- ・ジルケーン(α -カソゼピン) 25mg/kg/日以上で使用を
- ・カルメックス(トリプトファン)
- ・CBD(カンナビジオール)
- ・カーミングケア(ビフィズス菌 BL999)

薬物療法

行動療法の補助として使用

選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)

・フルオキセチン 0.5-2mg/kg sid

三環系抗うつ薬(TCA)

・クロミプラミン 1-3mg/kg bid

効果発現までに**2~4週間** 止める時は漸減



薬物療法

差し迫った場合に頓服でセロトニン系薬と併用

セロトニン遮断再取り込み阻害薬

・トラゾドン 3-10mg/kg 1-2時間前



抗けいれん薬

・ガバペンチン 10-30mg/kg 1-2時間前



ベンゾジアゼピン系薬 30-60分前

・ジアゼパム 0.5-2mg/kg

・ロラゼパム 0.02-0.1mg/kg



行動修正法



＜飼い主との関係の構築＞

オスワリ待て・フセ待てなど基本的なコマンドトレーニング

＜代替行動分化強化＞

犬の好みの場所（クレート、マットなど）でリラックスして過ごす練習

＜古典的条件づけの消去＞

外出の準備（鍵を持つ、ドアを開けるなど）をするが出かけない不安行動を示さなくなるまで1日2～4回繰り返す

行動修正法

<外出に対する系統的脱感作と拮抗条件づけ>

犬の好物を入れた知育玩具を与える



秒単位、分単位で計画を立て、徐々に外出時間を延ばす

1～3分→30分を超えたら5～10分

2～3時間が問題なくなれば1日中外出できることが多い

トレーニング中に不安徴候が認められるにも関わらず
トレーニングを継続すると悪化する可能性がある

行動修正法

<外出に対する系統的脱感作と拮抗条件づけ>

5:20 朝食 K9(ビーフ) 完食 テオドール、リコンパイル
5:30~5:50 Playtime (ゼシーバデー、ノーズワーク)
7:00 散歩 C(+) 普通便
8:30 部屋を出る、
すぐに戻り
8:45 出る) 時々 ドアの方をじっと見ている
8:50 戻り)
8:55 出る 横になつてじっとしている。
9:21 ハナキ数回
9:40 出る
10:04 排尿のタイミングで戻り
10:40 出る ↑ 咳(ハナ?)が続いてつらそう。
↓ 横になつている。入眠しているのか?
11:25 ハナキ
トレーニング終了

なかなか難しい!

予後

改善率 32/52頭(62%)

治療内容が多いと改善率が悪い

飼い主は時間のかからない指示は守るが
消去や系統的脱感作には消極的



Takeuchi et al, 2000

ご近所さんへの配慮も忘れずに

菓子折りで
隣人の聴力が落ちるかもしれません



症例 分離不安の治療

ハル

トイプードル 13歳 不妊雌

体重2.30kg BCS 3/9

既往症：僧帽弁閉鎖不全症、聴覚障害



主訴：半年前から誰もいなくなると鳴く

併発している問題：足先(四肢)を舐める、他犬に吠える

症例

1年前に実家から別居。自宅がペット不可のため
朝に実家につれて行き、今までと同じ部屋で留守番

半年前から近隣から鳴いていると連絡が入る

飼い主以外でも人がいれば鳴かないので
職場へ連れて行っていたが異動があり連れて行けなくなる

2ヵ月前からジルケーン34mg/kg/日や知育玩具を
使用するも悪化傾向

身体疾患の鑑別

主治医での血液検査・レントゲン・エコー検査
: 僧帽弁閉鎖不全症、胆泥

院内で身体検査・神経学的検査
: 関節の可動域低下、聴覚障害

認知機能不全評価シート: 問題なし

問題行動に関しての聞き取り

以前は20時間の留守番でも平気だった
おやつを期待して自らサークルへ入る

自宅では鳴くことはなく、入浴やゴミ出しなども問題なし
実家に移動してからは飼い主から視線を外さず後追い
知育玩具も飼い主がいなくなると食べない

玄関を出ると吠え始め、40分ほど吠えて休んでいた
近隣の人曰く1日中鳴いている

診断

- ・飼い主の不在時、不在を予期したときの不安徴候
（監視、後追い、食欲低下、吠え）
- ・飼い主在宅時は問題がない



分離不安と診断

聴覚障害による不安の増強を疑う

治療のゴール設定・使える資源の確認

留守番は13時間ほど
転居も考えておられる状況

→薬物療法併用

あまり時間はかけれない
散歩も忙しくて休日だけ

→環境修正中心に

休日の預け先にトリマー

→薬の使用の低減

治療計画

聴覚障害の不安軽減：ノーズワーク

環境修正：朝の散歩、パズルやノーズボックス、コング

薬物療法：・ロラゼパム 0.2mg/kgでも無効

→トラゾドン 5.68mg/kgに変更

・フルオキセチン 0.91mg/kg

2週間後、副作用がないこと確認し1.36mg/kgへ

ノーズワーク



ノーズワーク

元々はアメリカの保護施設で
保護犬たちの心身の健康のために行われていた遊び

激しい運動は無く、嗅覚さえ残っていれば出来るので
高齢犬や持病のある犬も楽しめる

怖がりの犬、興奮度の高い犬にもおすすめ

ドッグパズル



経過

第16病日

実家での留守番：4時間ほどで鳴き始める

→トラゾドン 11.4mg/kgへ増量

第29病日

6時出発。17時ごろから鳴き始める

→16時ごろに自動給餌器でおやつ

経過

第43病日

鳴かずに過ごせる日が続いている

実家でも監視が減り、以前の様子に戻った

第70病日

吠えることはあるが以前のような不安な様子は無い

足先を舐めることも無くなった

予防



予防として出来ること

＜飼い主との分離への馴化＞

- ・柵で仕切るなどで飼い主への後追いを阻止
- ・「待て」やクレートトレーニングで離れる練習
- ・外出前に運動させ、外出時には報酬(知育玩具など)を与える

子犬期に様々な社会的、環境的刺激を与える



「待て」は待ってる時を強化しましょう



飼い主が離れる練習



コングの使い方



ミルフィーユみたいにして味・食感を変えてあげると夢中になって噛んでくれます
詰めた後にラップをして冷凍庫で凍らせると、さらに長持ち

奥に好物を
固形物のが出てきやすい

途中はフード・おやつ
ふやかしたフードなど
ぎゅうぎゅうなほど難易度UP

最初は専用ペーストや
チーズでやる気UP



- ・噛みたい欲求の発散(甘咬み対策)
- ・1匹で過ごす練習(お留守番練習)
- ・疲れてよく眠ります(いたずら防止)

何個か用意していつでも使える様にしておくと便利です



- 分離不安の診断には留守中の動画が必須
- 初期対応はエネルギーの発散、外出準備を減らす
- 知育玩具など楽しい物とともに、離れる練習を

おまけ：猫もトレーニングできます



「南大阪どうぶつ行動診療」
YouTubeも覗いてみてください